



もうすぐ5月！お天気はいいけれど、ポーポキは運動の時以外はおうちに待機しています。あなたもおうちにいますか？みんなが元気で安全に過ごしていることを祈っています！



Popoki's Hot News!



Coming up!

灘チャレンジ！都賀川公園 10:00～16:00

<https://nadachallenge.wixsite.com/nadachallenge/cny>

今年は9月13日開催に決定！

*新型コロナウイルス拡大のため、延期・中止になる可能性があるため、近くになったらFBなどをご確認ください

「一言の平和」コーナー

ポーポキのお友だちのらくにゃんは、次の「一言の平和」を送ってくれました。



「平和」とは理解することです。バスケットボールに喩えると、「平和」とは公共なバスケットコートでシュートを打つようなものです。「バスケットボール」は国際法に似ています。それは、シュートを打つことなどの国家間の関係を規定するゲームなのです。そのおかげで、国家は平和を希求して努力を重ね、さらに重要なことには、紛争を予防することができます。国家は個々に「プレーする」ことも、「平和」つまり「ボール」などの共通の利益をめざす地域の連携に基づいて「プレーする」こともあります。「平和」は人によって異なります。それは、ある人の「知識」—ある人の持つ他者を理解する能力と定義します—の限界が反映されるからです。それゆえに、コートでは異なっていることを尊重します。つまり、国家は、平和のような共通の利益を達成するために、それぞれの違いを理解するべきなのです。」

あなたは今日、どんな「平和」に出会いましたか？ぜひお聞かせください。

ポーポキのメール [ronniandpopoki \(at\) gmail.com](mailto:ronniandpopoki(at)gmail.com) !

二日目の午前中は、「おしゃっち」という愛称で親しまれている大槌町コミュニティセンター内で、「ポーポキ友情物語」の布の展示を行い、今年も地元の方々に布に絵を描いてもらいました。絵を通して、震災や津波の体験や平和についての思いを話していただき、貴重な時間を過ごすことができました。ある女性は、笑顔の三人の子どもたちとハートを描きました。大槌のために働きたいと帰ってきたご夫妻は息子さんと暮らしているのですが、上のお姉さん二人は関東地方にいます。彼女は絵を描くと自分の思いがあらわれることに驚かれています。ご家族がまたすぐに会って絵のような笑顔になってほしいと思います。

11時から、おしゃっちでローレンにゃんによる台湾紹介のプレゼンテーションが行われました。大槌町は東京オリンピックでの台湾選手団のホストタウンに手を挙げていて、大槌町国際交流協会がこのような場を与えてくださいました。質問タイムは台湾の食文化などの話題で盛り上がりました。プレゼンテーションの後は、お茶っこで、地元の方々と交流の機会をもたせていただきました。お話ししながら食べた大槌伝統料理のなますとお汁粉は絶品でした。

午後は、コミュニティセンター内の図書館で、ポーポキ絵本の読み聞かせ英語と日本語で行いました。この日初お披露目となったろにゃんの新作絵本「ポーポキのおうち」は、小さい子どもでも楽しんで好評でした。それから、おおつちおばちゃんクラブのSHAKE HAND活動に参加しました。これは、鮭のぬいぐるみに飾り付けをして、販売したお金を寄付するという仕組みのすてきな活動です。ポーポキの仲間たちは今年も楽しんで鮭たちをデコレーションしました。



「ポーポキのおうち」の読み聞かせの様子

その後、写真家の伊藤陽子さんに、コミュニティセンター周辺を歩きながら当時の写真と見比べて震災・津波・火災についての説明していただきました。伊藤陽子さんは郊外まで車を出してくれて、大槌町で撮影された映画「風の電話」の舞台と三陸花ホテルはまぎくへのガイドツアーもしてくださいました。題材になった「風の電話」は誰にも言えないことやもう会えない人に聞いてほしいことを話すための電話です。そこには人々の思いやりがあらわれているように思えました。

三陸花ホテルはまぎくは、海に面した崖の上の眺めのいいホテルですが、当時は建物の半ばまで津波がやってきました。私たちはその周辺にある震災後に設置された津波から避難するための道路標識を確認しました。同じ道路でも思いがけないところまで水が来たり、海に近くても地形によって水が来なかったり、とっさの判断の難しさというのを実感しました。現在の道路標識には、土地勘のない人でも避難できるように波から逃げるにはどの方向にあと何メートル進めばいいかが具体的に描かれています。防災に力を入れてより多くの人を守りたいという強い思いを感じました。

大槌のたくさんの方々に支えていただき、今年もこのように充実した活動ができました。本当にありがとうございました。



左：伊藤陽子さんによる同じ場所の震災前、震災後すぐ、建物再建後の写真と現在の様子

右：「三陸花ホテル はまぎく」からすぐの津波浸水区間を示す道路標識

東北の旅の3日目である2月10日は、大槌町から三陸鉄道に乗り、大船渡市まで移動しました。そこで私たちは去年も一緒に活動を行ったNPO法人おはなしころりんの江刺由紀子さんと再会しました。去年はおはなしころりんの事務所がある大船渡市防災観光交流センター（通称おおふなぼーと）で絵本の読み聞かせを行ったのですが、今年は大船渡保育園と大船渡北小学校にてプログラムを行いました。

午前は大船渡保育園を訪問し、約60名の子どもたちと絵本の読み聞かせとお絵かきを行いました。読み聞かせしたのは「ポーポキのおうち」という新しいお話です。この話には、ポーポキの友達であるたくさんの動物たちが登場するのですが、今回は「rabbit（うさぎ）」、「hippo（かば）」、「wild pig（うりぼー）」など、英語を交えながら読み聞かせを行いました。予想以上に子どもたちは英語を知っていてとても驚きました。その後、「ポーポキに喜んでもらうために、あなたはどんなプレゼントをあげる？」というテーマで、大きな模造紙にお絵かきをしてもらいました。特に印象的だったことは、海や魚の絵を描いている子どもたちが多く、「さすが大船渡市の子どもだな」と感じました。最後は子どもたちが私たちのために歌を歌ってくれました。一生懸命歌う彼らの姿にとっても感動させられました。

午後は大船渡北小学校の2年生の子どもたちと活動を行いました。内容は同じものだったのですが、午前より英語をもっと多く交えて紙芝居をやってみました。子どもたちは徐々に、「Please come in（どうぞお入り）」や「See you（さようなら）」などの英語と一緒に読んでくれるようになりました。その後、午前の保育園で行ったように、ポーポキのためのプレゼントを大きな模造紙に描きました。キャットフードやケーキ、虹など、ポーポキが笑顔になりそうなものが模造紙の上に広がっていました。

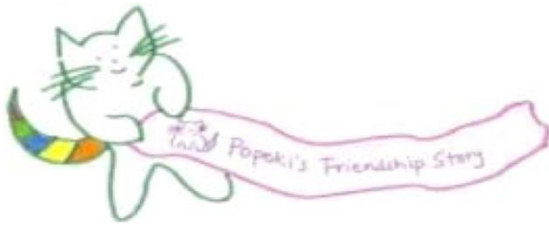
活動の前には、「上手くできるかな」、「子どもたちは楽しんでくれるかな」と緊張と不安がありましたが、終わった後には子どもたちがとっても笑顔になってくれて、私自身「大成功で終わった！」と思えました。それも、大船渡保育園や大船渡北小学校の先生方、そして江刺さんのご協力のおかげです。皆様に感謝の気持ちを述べるとともに、今後ともポーポキと皆様の友情が続くよう、願っております。



大船渡保育園



大船渡北小学校



Popoki's Interview

聞き手：なおこにゃん(神戸大学大学院 上原直子)

相手：江刺由紀子さん

大船渡出身、現在独立非営利活動法人おはなしころりんの理事長を務めている。



2020年2月10日、ポーポキ・ピース・プロジェクト東北活動に参加した、ろにゃん、さとにゃん、なぎさにゃん、やこにゃん、ろーれんにゃん、なおこにゃんは、おはなしころりんの江刺さんとともに、大船渡保育園、大船渡北小学校の2年生を訪問し、よみきかせを行いました。過去の「ポーポキ通信」164号でも取材に応じてくださった、NPO おはなしころりんの江刺さんに再度インタビューを行いました。今回は、江刺さんの活動への思いや、よみきかせの極意を伺いました。

Q よみきかせを始めたきっかけをおしえてください。

A: 私は昔、長くインドに滞在していて、3年間ボランティア活動をしていました。マザー・テレサの施設や盲人学校の寄宿舎に資金、食べ物や衣服などの物資を集めてくる活動をしていました。それは、インドに駐在する会社員の方やその同伴者の方を対象に、イベントを企画し、そこで集めた参加費を資金として、施設に届けていました。だけれども、その活動の中で、寄付をするとなるとどうしても、寄付する人、寄付される人の関係になってしまうことにもどかしさを感じるようになりました。それがあって、対等な関係でできる活動はないかと考えたところ、同じ時間を共有して楽しめる、紙芝居に行きつきました。紙芝居は、日本の文化でもあり、国境を越えて対等な人間関係を築くことの出来るツールになると思いました。その後、2003年に日本に帰った際に、よみきかせが注目されていたことから、大船渡で任意団体のおはなしころりんを設立しました。当時の時代背景もあって、国語力のアップ、情操教育を目的に活動をしていきました。それから、震災の時には、顔が見える活動なので、みんな大丈夫かなと思いつつながら、避難所を回ったんだけど、その時に、「本が楽しいね」、って一緒に思うことで、精神のバランスを保とうとしている自分に気づいて、思いを共有することで支えあうことの大切さに気づきました。そこで、震災後は、交流活動としてのよみきかせと教育としてのよみきかせの2本柱で活動をしていくことにしました。

Q この活動のやりがいを教えてください。

A よみきかせを聞いてくれる人の笑顔や言葉、反応がやはり嬉しいです。よみきかせを楽しみにしてきたよ、という言葉で簡単に報われちゃいます。また、自分の活動が、社会の他の人たちに影響を与えられているとわかる瞬間にやりがいを感じます。よみきかせ以外の活動にも影響を与えられているとわかった時が嬉しいかな。特に、大槌の社会で住民の方が自立して、よし、私も何かやろうとしている姿を見ると、この活動うまくいっているなって思います。

Q 今後の展望について教えてください

A 人と人をつなげ、人や町（大船渡）をつなげていきたいです。人々が自発的に何か、おちゃっことか人とのつながりの慣習がある地域なんだけど、津波でそれが寸断されてしまったので、再び人々のつながりを取り戻すことを目標に活動しています。例えば、大船渡に住む人がもっと街づくりに参加していくような流れを作りたいです。今の大人が次世代のために将来の街を作っていけば、その姿をみて、子供も将来同じように街づくりに関わってくれと信じています。

Q よみきかせにおいて、技術的なものと心構えで気を付けていることを教えてください。

A よみきかせに技術は関係ないと思っています。よみきかせのうまい人といえば、演劇家のような表現のイメージがあると思うのですが、自然なイメージのほうが大事だと思います。例えば、演劇家のようなよみきかせだと、ストーリーが伝わりにくいと思います。あなたが好きで会いに来て、あなたのことをかわいと思う「愛情」が伝わるのが一番大事です。

- よみきかせの基本（出典：特定非営利活動法人お話ころりん「やってみっぺし読み聞かせ」）
 - ・素直に読む。
 - ・心を込めて読む（つまり、自分も物語を楽しむ）
 - ・くつろげる時間と場所
 - ・よみきかせの対象に適した絵本かどうか。
- 集団を相手にしたよみきかせ
 - ・よみきかせ会の環境に適しているか（広すぎても狭すぎてもよくない）
 - ・絵本の絵が見えているか
 - ・読み手の声が聞こえているか。

Q よみきかせで抽象的な概念を理解してもらうのに、何か極意はありますか。平和や安心などの概念を、ポーポキ・ピース・プロジェクトで伝えていきたいと思っています。

A 正直なところ、安心や平和は人によって意味が違うと思っています、統一することはできないし、するべきではないと思っています。というのも、これらの概念は自分で感じたり考えたりするものだから、直接的にこの概念を問うよりは、これが安心だな、これが平和だなと自分で気づいてもらえるようにしたいと私は思っています。特に、絵本は、疑似体験をできるコンテンツだと思っています、絵本をたくさん読んで、経験をたくさん重ねる中で、安心や平和が何かをわかるようになるのがいいのだと思っています。絵本は本当にすごくて、ハッピーエンドが多いんです。それは、絵本で問題解決ができるということで、子供の自信や希望をはぐくむことができるんです。

一方で、ろにゃんたちが力を入れている、平和とは何かを問う「機会」も大事なのだらうと思っています。意図的に問いすぎるのはよくないのではと思うのですが、問われないと、いつまでも考える機会がないまま生きてしまいますからね。

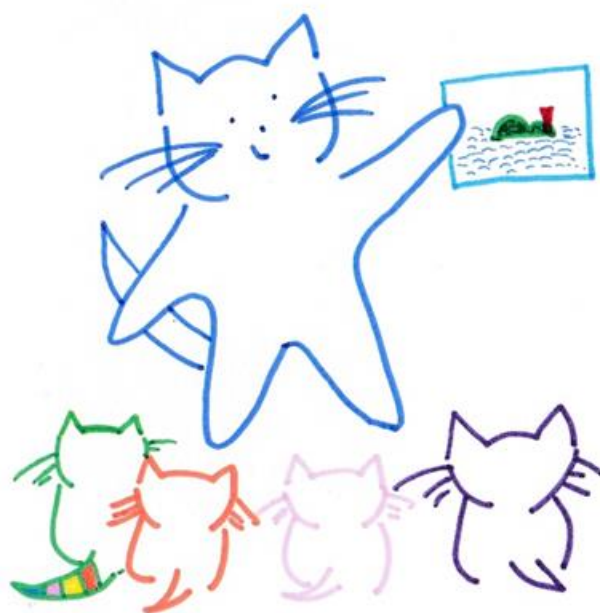
Q 今回のよみきかせについて、フィードバックをいただけますか？

A 総じて、4人の連携がよかったと思います。99点ですよ！特に大船渡北小学校のよみきかせが良かったです。よみきかせをする人以外のサポートが良かったし、よみきかせをする人が変わっても、お互いにフォローしあえているところが良かったかな。よみきかせをしていない人が、よみきかせを補完するような声かけをできたのがとても良かったですよ。強いと言えば、大船渡保育園で、よみきかせする人たちの立ち位置が、子供からみて真ん中でなく、偏っていたところは直せるかなと思います。

なおこにゃん

江刺さんへのインタビューを通して、よみきかせの極意だけでなく、よみきかせの活動に至ったきっかけや思いを聞くことができ、とてもいい機会となりました。江刺さんのように、生き生きと、信念をもって生きていくことの素晴らしさを感じることができました。ありがとうございました。

おしまい。



* 私たちはポーポキの友人のパーヴィンさんに今、彼女の住んでいるところはどうなっているかを教えてほしいとお願いしたら、以下のフォトエッセイを送ってくれました。感動して、ほかの友だちにもお願いすることにしました。あなたもぜひ、お話を共有してください。

新型コロナウイルス～世界的なパンデミック

パーヴィン・ゴライシ

私が住む街、カナダのトロント市で最初の新型コロナウイルス感染者が確認されたのは2020年1月の最終週のことです。カナダで同年4月の第二週までには確認された患者数は24,000人を上回り、そのうち快復したのは7,074名、亡くなったのは713名です。

嵐が近づいてきている

3月中旬になると、社会的ネットワーク、メディア、政治家、学者、学校、企業、病院、様々な集団やすべてのカナダ人はコロナウイルスを見つめていた。ソーシャルディスタンスや個人的な衛生に関する規則や規制が強化されている。カナダ公衆衛生庁は毎日、最新情報を提供している。

カナダ公衆衛生庁は、カナダでの新型コロナウイルス感染症（Covid-19）による死亡者は、4400人～44,000になると推定している。

1- Stay Home



2-道には誰もいない



3- 私の近所にも誰もいない



4- 駐車場に車はない



恐怖感

各スポーツ連盟は試合を停止、劇場、音楽堂、グラウンド、学校、大学、食料以外のお店はすべて閉まっている。スーパーではパニックが起こる。教会、モスク、礼拝堂は閉鎖する。議会が休止する。不急不要な移動以外に国境も閉鎖。株の値下がりが続く。

緊急事態が宣言される。

自治体、医療機関、業界が感染の拡大を防ぐために徹底的な措置をとる。ロックダウンの期間は、カナダ人の行動によると言われる。カナダ人はロックダウンに協力する。

ソーシャルディスタンスが本格する。

緊急事態：我々は Closed

5- 散髪やカットはない



6- レストランが閉まっている



7- 歯医者も閉まっている



8- 公共図書館が閉まっている



9- 学校やグラウンドが閉まっている



10- 食料を買うための行列



嵐が近づいている。外になにか、恐ろしいものの潜んでいる。

私の最初の反応は恐怖だった。安心感が壊れた。世界が変わったと感じた。そして本当に変わった。短期的だと言われるが、そんな感じではない。私の世界が変わりつつある。つながりや親密な関係性を失っていることに気づく。そして多くの人は経済的なインパクトを心配している。このパンデミックを受けて、貧しい人々、ITに縁がない人々、戦争の最中にいる人々やこの世で自らを守るすべがない人々をいっそう思うようになった。

私を救ったのは、できることやできないことを探ることだった。この問題を解決しようとしている人を信じ、それを受け入れることに自らの支配力やパワーを見つけ出した。言われた通りにした一手を洗い、安全な距離を開き、情報を得ながら個人として、そして団体の一人としてできることを探す。

今日を生き、最悪のことを想像しながら明日のことを考えることを控えるようにした。ほかのパンデミックを思い出し、「一時的なものだ」と繰り返し自分に言い聞かせる。私たちが協力しあって、このグローバルな世界の問題を本当に解決できることを願っている。

希望がある：すべては中止になっているわけではない。

11- 希望と連帯は中止になっていない



他の人と同じように、ITなどを通じて友だちや家族、グループとつながることによって、この暗みの中で希望の光を見つけた。パンデミックによって、私たちは互いにつながりあっているグローバル市民であることを見せられた。「うちにいよう」という状態によって、グローバル化された世界において社会や人類に対する脅威とは何かを考える時間を得た。新型コロナウイルスは危険信号であり、この時代のほかの深刻な問題に関係している。パンデミックによって、私たちは一層考えた。より良い世界をつくるには、戦争、飢餓、汚染、環境劣化、過剰消費、人種、ジェンダー、階級の対立をどう克服するか。

12- それぞれの近所に小さな無料図書館



他の人と同じように、私は近所に出没した小さな無料図書館を使う。近所のグループをつくり、お互いを助け合っている。縫い物ができる人は、みんなを守るためにマスクをつくる。お年寄りや脆弱な人たちのお手伝いしたりしている。

13- ひとりではない



14- 個人や集団はローカルやグローバルな支援をしている



15- 人を支援する



それぞれのレベルでの政府は、ロックダウンによって悪影響を受けている個人や経営者を助けるための政策を講じる。金融機関は金利を下げ、抵当、税金、家賃の支払いを遅らすことができるようになった。

フードバンク、宗教団体、住民団体、個人、慈善団体などはみんな、それぞれの役割を果たしている。カナダや世界中のコンサートホール、美術館、博物館、映画館はソーシャルネットワーキングによって無料になった。学校や大学は、新しい学び方やつながり方を導入している。個人や集団は、ローカルに行動しつつ、グローバルにつながっている。

新しい、そしてできればより良い世界が来つつある。 .

16- 新しい、より良い世界が来つつある 17-春が私たちが歓迎する～希望を捨てないでね



18- ありがとう



ポーポキちゃんの簡単ポガ教室

Lesson 143

今月のテーマは、ストレッチ!!!!



1. まず、いつものように、美しく座りましょう。
 2. では、立ちましょう。腕を広げて上へストレッチ！太陽や雲をハグしよう！良かったら、腕をあげたまま、右左に回してみてもいいかな？
 3. 次は腕を横へのぼしましょう。手のひらの向きはうしろへ。そのまま、腕をうしろへ動かしたり、空気に大きな円を描いてみたりしましょう。
 4. 最後に、前かがみになりましょう。腕を上にあげて指をつなぎましょう。そして、上へストレッチ…。そして、力を抜いて！繰り返してみましょう。
 5. できてもできなくてもがんばりましたね。では、「できたポーズ」をどうぞ！
- お疲れ様でした。少しリラックスできましたか？毎日、深呼吸・笑・リラックス、そしてポガを最低3分間練習しましょうね。

一緒にいかが？



次回のポー会：5月13日 Zoom会議 17:30~

7.11 ポーポキ@子どもの里！午前中の予定。

8.6 核問題を話し合うスカイプ！日本・アメリカ・グアム！

9.13 灘チャレンジ！10:00~16:00@都賀川公園。ポーポキは模擬店、展示を開催する予定。

* コロナウイルス感染拡大を避けるため、延期・中止となる場合もあります。近くになりましたら、ご確認ください！

ポーポキの友だちからのおすすめの絵本

『りょうくんのすすむみち—学校に行けない君たちへ—』作・絵 かねしろ みゆき、学研 2019年。
大槌町 『生きる証 岩手県大槌町 東日本大震災記録誌』監修:大槌町教育委員会、ほか。2019.7。

Popoki in Print

ポーポキ通信のバックナンバー<http://popoki.cruisejapan.com/archives.html>

- アレキサンダー&桂木 「被災体験後「今」を表現する：絵から読み取れる被災ナラティブ」国際協力論集 27(2) 2020.2 pp.17-32. http://www.lib.kobe-u.ac.jp/infolib/meta_pub/detail
- 「ポーポキのミニ平和映画祭」「こくしのまど 52」『神戸青年・Kobe YMCA News』No.652 2017.7-8
- ESD Digital Archives, Kansai Council of Organizations for International Exchange <http://www.interpeople.or.jp>
- 関西国際交流団体協議会の「デジタルアーカイブ(WEB版の事例集)にポーポキ! <http://www.interpeople.or.jp>
- 『平和を考える絵本出版 被災者支援きっかけに』『神戸新聞』(貝原加奈 2014.4.25 28面)
- 「ボランティア 37 団体に助成 大和証券福祉財団」『神戸新聞』(2013.8.23 朝刊 地域経済 8面)
- 「原爆の熱線で焼き付いたー “人影”再現、非核誓う」『神戸新聞』(2013.8.7 朝刊 22面)
- 「被災 秘めた思い描いて」「ひとと抄」『読売新聞』(2013.2.16 夕刊 4面)
- 広岩近広 『安全』『安心』の社会は足元から」、ロニー・アレキサンダーインタビュー 『毎日新聞』2012.10.29 (「今、平和を語る」、夕刊、1面)
- R. Alexander. “Remembering Hiroshima: Bio-Politics, Popoki and Sensual Expressions of War.” *International Feminist Journal of Politics*. Vol.14:2:202-222, June 2012
- 「ポーポキと一緒に作り出す平和の根底に 9 条がある」NO : 66 2012 年 5 月 12 日 [子どもと守る9条の会]
- 「布に希望 60メートル」阿久沢悦子 『朝日新聞』2012.1.21 (兵庫・29面)
- 「平和祈る声まとめ本に」斎藤雅志 『神戸新聞』2012.1.19 (伝える 1・17 3・11、22面)
- K. Wada. “Conversations with Ronni Alexander: The Popoki Peace Project; Popoki, What Color is Peae? Popoki, What Color is Friendship?” *International Feminist Journal of Politics* Vol.13, No.2, 2011, 257-263
- S. McLaren. “The Art of Healing” (Popoki Friendship Story Project) *Kansai Scene*. Issue 133, June 2011, p.10. kansaiscene.com
- R. Alexander. (2010) “The Popoki Peace Project: Creating New Spaces for Peace in Demenchonok, E., ed. *Philosophy after Hiroshima*. Cambridge Scholars Publishing, pp.399-418
- 「省窓」『神戸青年』No.606 2011.1.2 p.1
- No.1 『ポーポキ、平和って、なに色?』の背後にあるもの (連載) とさぼりライフ第 19 号 2010.10:4
- 堀越健志「シリーズ:こくさいのまど⑯(パレスチナについて)『神戸青年』No.604 2010.9-10
- 「みんなでやれば、何にかが変わる！」THE YMCA No.607 June 2010, p.1
- [ヒロシマと世界：被爆地の声 非核と平和、復興と再生、許しと命の尊厳訴え] http://www.hiroshimapeacemedia.jp/mediacenter/article.php?story=20100312140608602_ja
- 2010.3.15 中国新聞 ヒロシマ平和メディアセンター
- FM COCOLO 76.5 'Heart Lines' 2010.1.9 Interview: Ronni on Popoki in Palestine
- “Human Rights, Popoki and Bare Life.” *In Factis Pax Journal of Peace Education and Social Justice* Vol.3, No.1, 2009, pp.46-63 (<http://www.infactispax.org/journal/>)
- 西出郁代 「ポーポキ、平和って、なに色?ロニー・アレキサンダーを迎えて」『PPSEAWA』(日本汎太平洋東南アジア婦人協会) No.63 2009.12, p.5.
- 「友情」第 2 号 2009.11 伊丹市国際・平和交流協会 年間事業報告 pp.1-2
- 「ともに・・・」No.29 2010.1 家庭と保育所、学校園、地域を結ぶ在日外国人教育情報誌 ポーポキ・ピース・チャレンジ情報 p.12
- 区民情報誌「なだ」2009.12, p.2. ポーポキ・ピース・チャレンジ情報。
- 「『ポーポキ、友情って、なに色?』」「私のいち押し」奥田光子 THE GAIDAI 2009.7.17 No.243 (関西外大通信)
- 「友情って・・・考える絵本」朝日新聞「生活」(阿久沢悦子) 2009.7.2
- 「友情を考えて人間と、ねこと、そして自分と～」れ組通信 RST/ALN 2009.6.28 No. 259, p.11
- 「カテイング・エッジ」第 35 号 2009.6 (北九州市立男女共同参画センター「ムーブ」)「新刊紹介:『ポーポキ、友情って、なに色?ポーポキのピース・ブック 2』(レベッカ・ジェニスン) p.3
- 「猫を通して平和を考える 絵本の第 2 弾を出版」(斎藤雅志) 神戸新聞 2009.4.21
- 「ポーポキ、平和ってなに色?」KOBE YMCA NEWS「神戸青年」2009.3.1 No.593 p.2
- 「ポーポキ、ゴミってなに色?」KOBE YMCA NEWS「神戸青年」2009.1.1 No. 592 p.2
- 「友だちになってくれませんか?」RST/ALN 2009.2.22
- ラジオ番組の中のポーポキ!!! プロジェクト・メンバーの宇留賀佳代子さんがラジオ番組で紹介してくださいました。ぜひお聞きくださいね。 <http://www.kizzna.fm/> 録音番組。(リンクは現在無効)
- やさしいから人なんです展パート20 実行委員会『世界人権宣言』ひょうご部落解放・人権研究所 2008.10 500 円。詳しくは: blrhyg@osk3.3web.ne.jp
- 「KFAW カレッジ ロニー・アレキサンダー氏 講演会」エイジアン・ブリーズ/Asian Breeze No.54 October 2008, p.8 (アジア女性交流・研究フォーラム)
- 「ピースセミナー in 熊本 あなたにとっての「平和」とは?」Kumamoto YMCA News 10; Vol.437 October 2008, p.1
- 神戸新聞「人権宣言 兵庫から発信 全 30 条 イラストで表現 地元ゆかり 6 名がパネル制作」2008.10.8. 10



私にとってポーポキ

こんにちは！

ニキタにゃんです！

私は本が大好き！



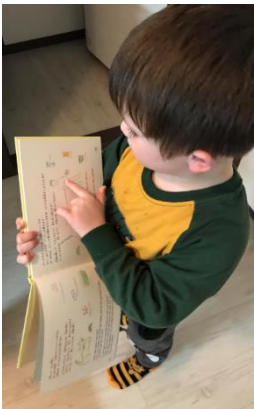
黄色のポーポキ

の本も大好き！

猫ちゃんと黄色

が好きだから

=^._.^=



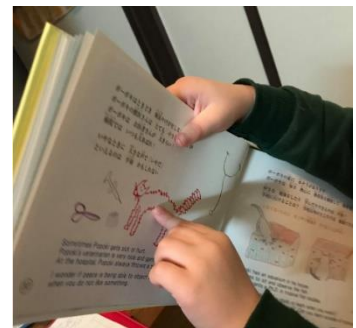
各ページにポーポキを見つけます！

ろにゃんも時々見つけます！

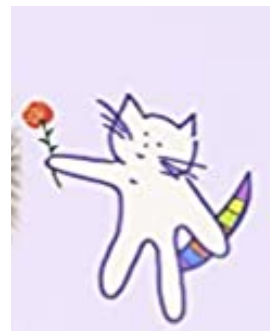
このページのポーポキはすご

くかわいそう。ポーポキはす

ぐによくなるといいね！



私も猫ちゃんを飼っています。私の猫ちゃんがポーポキのにじいろのしっぽのようなしっぽを持っていないけど、私は私の猫ちゃんが大好き！猫ちゃんの名前はクリョーパです。クリョーパは私の友だちです！ポーポキとクリョーパも友だちになるといいな (=♡ 人 ♡=)



ご協力お願いいたします！



ポーポキ・ピース・プロジェクトは、『ポーポキ、平和って、なに色？ポーポキのピース・ブック1』（エピック、2007年）、『ポーポキ、友情って、なに色？ポーポキのピース・ブック2』（エピック、2009年）、『ポーポキ、元気って、なに色？ポーポキのピース・ブック3』を題材に、全身で平和の意味を探り、一人ひとりの「発見」を平和の創造に役立てようとする小さな平和活動団体です。また、2011年に起こった東日本大震災をきっかけに活動しており、『ポーポキ友情物語 東日本大震災で生まれた私たちの平和の旅』という本を2012年1月に発行しました。2006年に設立されて以来、日本国内外で幅広く平和のためのワークショップなどの開催を続けてきました。活動の資金はすべて本の売上や寄付によって行っています。

これからも平和を考えるためのピース・ワークショップ、読み聞かせ、ピースキャンプ参加、ポーポキのピース・ブックの翻訳（『ピース・ブック1』は既に10カ国語に翻訳されている）、『ポーポキのピース・ブック3』の執筆などの活動を中心に活動をする予定です。定期例会「ポー会」を月に一度のペースで開催しています。一緒に活動なりたい方はぜひご参加ください。（ポー会の開催については、ポーポキ通信の「一緒にどうぞ」の欄をご参照されたい。）

また、こういった活動に対してのご協力、ご支援をぜひお願いしたいと存じます。本の購入・寄付・本についてのコメント、感想、注文などについては、popokipeace@gmail.comへ お問い合わせください。

なお、本についての問い合わせや注文は、お近くの書店、アマゾン、あるいはエピック（TEL: 078-241-7561・FAX: 078-241-1918）へどうぞ。

ポーポキ・ピース・プロジェクト [popokipeace\(at\)gmail.com](mailto:popokipeace(at)gmail.com)



<http://popoki.cruisejapan.com>

郵便振替口座番号 00920-4-280350

ゆうちょ銀行 店番099 店名099店 当座 口座番号0280350

口座名 ポーポキ・ピース・プロジェクト神戸

ポーポキ平和募金は一口 1500 円 何口でも結構です。



THANK YOU FROM POPOKI!